

# 韓国人上級日本語学習者の 漢字の書き誤りに関する一考察

長原成功\*  
narika77@duft.ac.kr

## <目次>

- |         |             |
|---------|-------------|
| 1. はじめに | 4. データ分類と分析 |
| 2. 先行研究 | 5. おわりに     |
| 3. 調査方法 |             |

主題語: 作文(composition)、漢字の書き誤り(kanji writing errors)、日本語能力試験(JLPT)、部品(part)、部首(radical)

## 1. はじめに

日本語教育での作文能力とは「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能の中で最も総合的な日本語運用能力だと言える。「書く」という行為の前提は「話せる」ということであり、「話せる」学習者は当然「書ける」と思われやすい。しかし、最近の韓国での日本語学習者を見ると、日常会話では普通に話せる学習者でも基本的な文字である平仮名やカタカナさえも正確に書けないという学習者を見かけることが1990年代よりも遥かに多くなっているのを感じる。それはアニメーションなどの媒体を通して耳を通して自然に身に付けた結果、書くことが疎かになってしまったのではないかと推察するが、「話せる」≠「書ける」であることは確かなことである。また、日本語を母語としない外国人の日本語能力を客観的に測定する日本語能力試験の一級を持っている日本語学習者に感想文や意見文を書かせても我々教育現場にいる者が期待するレベルにまで達していない学習者も数多くいる。

\* 大邱外國語大學校日本語科通翻譯科 専任講師

1) 小川芳男外11人(1982)『日本語教育事典』大修館書店

本稿ではD大学の日本語関連科に所属している学生のうち、3年生と4年生の授業を聞いている日本語能力試験1級(N1)<sup>2)</sup>合格者に作文を書かせ、その作文に現れた漢字表記の誤りを分析し、その傾向を把握することによって上級日本語学習者の漢字教育に対する方向性を示そうとするのが目的である。

## 2. 先行研究

韓国における日本語の誤用に関する研究は非常に活発に行われてきたと言える。特に1980年代から1990年代にかけては助詞、動詞、音声、副詞、表現、発話など30項目以上にも及ぶ研究がなされ、それを大きく分けると文法、音声、表現などに分けられる。

2000年代の研究として代表的なものは趙南星(2002, 2003, 2004, 2007)の研究で、そのうちの一つは国立国語研究所の「日本語による作文」のデータを利用し、245名が書いた作文の分析を行っている。そこでは「動詞の活用」、「形容動詞の活用」などの誤用を10項目に下位分類して分析した。また、2003年の研究では300名の日本語を専攻している大学生や大学院生に作文をさせ、その作文を日本人の日本語教師と韓国人の日本語教師とに分け、計63名の教師に各誤用の評価を依頼し、その結果をまとめて計23のカテゴリーに分けて日本語学習者のレベル別に考察している。2004年の研究では既存の誤用分析調査をした論文などを通し、韓国語話者が間違えやすい日本語の誤用についてまとめ、誤用の領域を音韻論、文字論、語彙論、形態論、統辞意味論、語用論の六つに分けて分析した。そして2007年の研究では大学で使用されている日本語初級教材8冊の社会語用論的誤用を探し出して日本語を教えている日本語教師、日本語関連の日本人専攻者、日本の大学生、韓国人日本語学習者計111名に対し訂正してもらった結果を分析した。

また尹ホスク(2007)では韓国人日本語学習者の作文誤用のうち文体に関わった誤用に焦点を当て、中上級のクラス・修士論文15本及び学会論文15本を資料として誤用を調査分析し、その誤用の実体を通して作文教育に対する指導方法の必要性を訴えた。

また、日本語の表記上の誤用に関する研究では李薇(2009)が中国の大学における日本語学習者に対して試験の解答用紙から誤用を抽出し、その誤用の分類を①簡体字をそのまま

2) 日本語能力試験1級またはN1に合格している学習者を上級日本語学習者と規定して論を進めていくことにする。

日本語に持ち込んだ誤用②同音異義語の誤選択③発音類似の誤用④形類似の誤用⑤その他の誤用の5つに分けて分析を行った。また日本人に対しての漢字誤用の分析を行ったのは廬(2004)の研究である。この研究ではレポートや卒業論文、手書きの授業アンケートや感想文、ゼミのレジュメなどを通して日本人がおかした漢字の書き誤りを収集し、その結果を①部首誤用②別字誤用③別語誤用④非同音字代用の四つの分類に分けて分析した。そしてその結果を通して日本人の書字能力低下の原因を六つの項目に分けて探っていき、さらに誤用を起こすことによって及ぼされる悪影響を考えることによって漢字の再教育の必要性を語っている。また、韓国人日本語学習者の漢字表記の研究としては崔(2009)の研究があるが、この研究では日本で初級日本語を学習している計107名の学習者に対し3ヶ月にわたり書き取りテストをさせ、その結果を非漢字圏の初級学習者と比較し、①既知漢字干渉②心像干渉③漢字基本特性干渉④漢字書体干渉⑤バランス干渉⑥漢字字体干渉の六つに分類し分析を行った。本稿では韓国人上級日本語学習者の作文の中から抽出した漢字表記の誤りにのみ焦点を当てて調査・分析していくことにする。

### 3. 調査方法と範囲

#### 3.1 調査期間と対象

調査期間は2009年から2012年の前期までに行った作文を資料とし、調査対象はD大学の日本語関連専攻者のうち日本語能力試験1級または現在のNIを持っている大学生延べ63名に対し、テストを通して書いた自由作文<sup>3)</sup>を分析することにし、その際の作文の量は一人500字から800字とする。

#### 3.2 調査分析の方法と範囲

本稿では一人の作文の中で重複して現れる漢字表記の問題については一つの誤りとして

---

3) 本稿では作文の方法である「制限作文」「誘導作文」「自由作文」のうち、文章全体を総合的に観察するために「自由作文」を選んだ。ただ自由作文と言ってもテーマを決めた上での自由作文とし、電子辞書は一切使わないことを条件とする。

考えることにし、今回の調査では漢字の形態上の問題のみならず、漢字で構成されている単語の使用不適合な場合も調査の対象とする。また、三字からなる漢字語のうち二つ以上の漢字の書き誤りがある場合はそれぞれ別の分類として分けることにする。調査分析をするにあたり日本語学習者に書いてもらった作文のテーマは以下の通りである。

<表1> 作文のテーマ

- ・ 韓国の男性が結婚相談所を通してフィリピン・ベトナム・カンボジアなどの女性と結婚することについてあなたの意見をまとめなさい。
- ・ 2012年に地球が滅亡するとすればあなたはどうしますか。
- ・ 体罰について自分の意見を述べなさい。
- ・ 墮胎手術について自分の意見を書きなさい。
- ・ 死刑制度について自分の意見を書きなさい。
- ・ できちゃった婚について自分の意見を書きなさい。
- ・ ファーストフードについて自分の意見を書きなさい。
- ・ セクハラについてどう考えているかを書きなさい。
- ・ 日本の住居と韓国の住居の違いについて書きなさい。
- ・ 日本のマナーと韓国のマナーの違いについて書きなさい。

## 4. データ分類と分析

今回の調査で得られた漢字誤用のデータは計1314で、その誤りを類型別に振り分けるに当たり河室(2003)の漢字誤用分類を参考にし、今回の調査の結果に見合う項目を多少付け加えて分類を行った。その結果、①旧字体になっている場合、②日本語での同音異字、同訓異字③韓国語での同音異字、④②+③、⑤非漢字で代用、⑥形が似ている漢字の代用、⑦日本語にある単語であるが、使われ方が適切でない、⑧漢字の前後転倒、⑨その他の9項目に分けられた。

4) 実際の漢字誤用の単語数は130になるが、一つの単語の中で二つの漢字誤用があったためカウントが一つ多くなっている。

<表2> 本調査における漢字誤用の分類

コード	漢字の誤用類型	誤用内容	誤用数	%
1	旧字体	当用漢字字体表が告示される前に使われていた漢字を使っている場合。	2	2%
2	日本語での同音異字、同訓異字	音読み、訓読みでは同じ発音であるが、違う漢字で代用している場合。	8	6%
3	韓国語での同音異字	韓国語の発音では同じだが違う漢字を代用している場合。	16	12%
4	2+3	日本語の音読みと韓国語での音の両方が共に同じであるが、違う漢字を代用している場合。	27	20%
5	非漢字で代用	部品の付加や部品の脱落、違う部品の代用などがある場合。	28	21%
6	形が似ている漢字の代用 <sup>5)</sup>	部品の一部が同じであったり、全体的な形が似ている場合。	46	35%
7	漢語の前後転倒	二字漢語の前後左右が反対になっている場合。	2	2%
8	その他	上で分類した類型に当てはまらない場合	2	2%
計			131	100%

#### 4.1 旧字体

旧字体とは当用漢字字体表<sup>6)</sup>が告示される前に使われていた漢字のことを言い、今回の調査では2例が抽出された。

<表3> 旧字体で書かれていた場合

讀<→読、
惡影響<→悪影響>

長原(2010)<sup>7)</sup>が行った調査でもあるように旧字体で書かれている誤りは「者」のように日の上部に点が入ったり、竹冠の「竹」の三画目と六画目の出発点や角度の問題、草冠の「艹」を「

5) 本稿では例えば「少」と「小」のように形が似ている場合でも日本語の音や韓国語の音で同じになる場合は音の方を優先的にして2に分類することにする。  
 6) 「当用漢字字体表」とは、法令・公用文書・新聞・雑誌および一般社会で、使用する漢字の範囲を示したもので、今日の国民生活の上で、漢字の制限があまり無理がなく行われることをめやすとして選ばれた漢字を示した表のことである。「当用漢字字体表」については文化庁ホームページを参照。  
[http://www.bunka.go.jp/kokugo\\_nihongo/joho/kakuki/syusen/tosin05/index.html](http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/joho/kakuki/syusen/tosin05/index.html)  
 7) 長原成功(2010)「韓国人日本語学習者の漢字表記上の問題について」『日本近代学研究』第29輯, pp.129-141

+)と表記してしまう問題、そして「潔」の「圭」の部品を旧字体の「圭」と書いてしまっている問題としんじょう「え」を「え」と書いてしまっている等の問題が挙げられているが、これらの問題は韓国での漢字教育の観点から見ていく必要がある。韓国における漢字教育は1972年に「ソウル特別市教育庁」の「初等学校漢文教育過程」から600字を例示したが、例示したのみで段階別に習うべき漢字を提示したわけではなかったので実際にはうまく漢字を活用したとは言えない段階であった。最近の韓国の漢字教育は学校長の裁量によって教育するかどうかを決めるためすべての初等学校で漢字教育がなされているわけではなかったが、2009年改訂教育課程を通して「創意的体験活動」という時間に漢字教育を実施することのできる基盤が作られたことで体系的に漢字教育を実現できるようになった。しかし、たとえ学校教育で漢字を学習することができるからと言っても日本の常用漢字と韓国で使われている正字体とでは形状的に違う漢字も多い。朴(2010)では日本の教育用漢字と韓国の教育用漢字の字形に差があるものを整理したが計173字にのぼる<sup>8)</sup>。それを整理したものを表4に表す。

<表4> 日韓両国教育用漢字の字形の差

	字形の差
日本	虫、円、学、糸、気、体、声、広、万、台、壳、婦、点、読、会、
韓国	蟲、圓、學、絲、氣、體、聲、廣、萬、臺、賣、歸、點、讀、會、
日本	囟、当、絵、画、麦、国、数、昼、楽、来、毎、社、黄、歩、礼、
韓国	圖、當、繪、畫、麥、國、數、晝、樂、來、毎、社、黃、步、禮、
日本	予、医、写、駅、号、鉄、区、対、県、転、実、齒、発、両、研、
韓国	豫、醫、寫、驛、號、鐵、區、對、縣、轉、實、齒、發、兩、研、
日本	菓、軽、乘、悪、暑、様、横、温、漠、神、福、練、者、都、真、
韓国	藥、輕、乘、惡、暑、樣、橫、溫、漠、神、福、練、者、都、眞、
日本	緑、勉、変、辺、塩、芸、灯、挙、統、覚、伝、欠、観、辞、勞、
韓国	綠、勉、變、邊、鹽、藝、燈、舉、續、覺、傳、缺、觀、辭、勞、
日本	罍、采、閑、驗、焼、単、参、戦、争、径、歴、残、浅、満、節、
韓国	圍、榮、關、驗、燒、單、參、戰、争、徑、歴、殘、淺、滿、節、
日本	静、兒、器、帯、梅、殺、祝、類、巢、録、弁、弁、庄、旧、
韓国	靜、兒、器、帶、梅、殺、祝、類、巢、録、辯、瓣、壓、舊、
日本	弁、桜、応、鉦、余、属、団、価、断、独、証、仮、營、檢、豊、
韓国	辨、櫻、應、鑿、餘、屬、團、價、斷、獨、證、假、營、檢、豐、

8) 朴世珍(2010)「韓・日 初等學校 漢字教育 比較와 바람직한 漢字教育方案」誠信女子大 大学院博士学位論文, p.98

日本	險、条、贊、雜、仏、総、効、経、錢、増、徳、状、祖、衛、庁、
韓国	險、條、贊、雜、佛、總、效、經、錢、増、徳、狀、祖、衛、廳、
日本	蚕、宝、党、拡、訳、担、乱、処、権、濟、覽、嚴、臟、藏、並、
韓国	蠶、寶、黨、擴、譯、擔、亂、處、權、濟、覽、嚴、臟、藏、並、
日本	晩、専、腦、郷、勤、將、層、從、拜、朗、穀、縦、署、著、装、
韓国	晩、專、腦、郷、勤、將、層、從、拜、朗、穀、縦、署、著、裝、
日本	諸、難、屈、秘、卷、収、視、
韓国	諸、難、屈、祕、卷、收、視

現在の韓国の初等学校の約85%の学校で漢字教育がなされており、その児童の両親に対するアンケート調査でも父兄の89%が漢字を習ったことがあるという調査結果<sup>9)</sup>を見ても分かるように漢字自体の学習はかなり以前からされてきているのは確かである。そのような意味では漢字自体に初めて接する英語圏の学習者とは違い、ある程度は漢字に対する親しみを持っている可能性がある。しかし、いくら漢字を学習した経験があると言っても表4のように日本の漢字字体と韓国の漢字字体が173字も違っているという結果を見れば日本語学習者はまた新しい漢字の形を習得していかなければならない。そういった意味からしても初級の日本語学習者が旧字体で書いてしまうという間違いが起こる可能性があるという事は十分理解できる点である。長原(2010)の初級・中級レベルの学習者の漢字の書き誤りに対する調査結果を見ると、旧字体で書いてしまっている場合が12件<sup>10)</sup>あったのに対し、今回の上級日本語学習者に対する調査で2件しか出なかったのはそれだけ上級日本語学習者たちが旧漢字と新漢字の区別ができていることを示唆しているのではないかと判断される。次に日本語での同音異字・同訓異字の場合を見ていくことにする。

### 4.2 日本語での同音異字・同訓異字

日本語で同音異字・同訓異字とは音読み・訓読みでは同じ発音であるが、違う漢字で代用している場合を指し、今回の調査では8例の書き誤りが得られた。具体的な書き誤りは次の通りである。

9) 朴世珍(2010)「韓日 初等學(校) 漢字教育 比較와 바람직한 漢字教育 方案」誠信女子大学校大学院 博士学位論文, pp.200-202  
 10) 長原(2010)の調査では初級レベルの日本語学習者の漢字の書き誤りは41件、中級レベルでは66件、計107件のうち旧字体が書かれている書き誤りは12件であった。

&lt;表5&gt; 日本語での同音漢字、同訓漢字の書き誤りの例

お進めます<→お薦めます又はお勧めします>、衝動を押さえる<→抑える>、  
 感心<→関心>、大い<→多い>、人盛<→人生>、仁盛<→人生>、  
 格国<→各国>、情小年<sup>11)</sup><→青少年>

表5の書き誤りの例のうち、「お進めます」は「進行する」という意味での「進める」と「推薦する」などの意味を持つ「勧める、薦める」の意味上の差が認識できていない場合で、「押さえる」も同じように「その場から逃げられないようにする」という意味での「押さえる」と「抑圧する」という意味での「抑える」との意味上での差の理解不足から来ている可能性がある。また、「感心」の漢字を韓国語で表記すると‘감심’になり、「関心」は‘관심’となることから、ただ「かんしん」という発音上で知っている言葉を漢字に直す過程で発生した可能性があり、それと同じく「大い」も元々「おおい」であることは分かっていたのであるが、漢字を当てはめる際のケアレスミスだと思われる。ただ「人盛」や「仁盛」のような書き誤りでは「生」と「盛」とを漢字の難易度で比べてみると明らかに「盛」の方が難しい漢字であり、その難易度の高い漢字を何故わざわざ書いたのかということについては疑問が残るところである。次にこれらの書き誤りのうち比較的元の該当漢字に近い書き誤りのうち、どのような位置で書き誤りが発生しているのかを調べるために模式的に表6に表すことにする。

&lt;表6&gt; 書き誤りの類型と位置1

書き誤りの 類型	書き誤りの位置	例	数
追加		格国(各国)	1
		情小年(青少年)	1
全く違った漢字 で代用	位置とは関係なし	お進めます(お薦めます又はお勧めします)、衝動を押さえる(抑える)、感心(関心)、大い(多い)、人盛(人生)、仁盛(人生)	6

11) 「情小年」の「情」は『日本国語大辞典』や『日本語大辞典』などで「せい」という発音が書かれているので4.2に分類した。また、「情小年」の「小」の場合は日本語読みでも韓国語読みでも同じ音になるため分類④2+3に入れて二種類の書き誤りとして分類した。



### 4.3 韓国語での同音異字

韓国語での同音異字とは書き誤りの漢字を韓国語読みすると該当漢字と同じ発音をし、日本語の音読みでは異なる発音をする場合で、16例のデータが得られた。具体的な例は表7の通りである。

<表7> 韓国語での同音異字の例

架空(→加工)、不定的<→否定的>、切対<→絶対>、占<→点>、中洞<→中東>、道中<→途中>、如談<→余談>、未成年子<→未成年者>、高教生<→高校生>、社業<→事業>、発殿<→発展>、学交(→学校)、対表<→代表>、代して<→<対して>、安転<→安全>、人相(→印象)
--

表7の書き誤りの例は全体の15%を占めており、4番目に多い書き誤りである。これらの書き誤りを音読みで読むと本来の単語に対して濁音が入れている場合が4つ(「中洞」「道中」「発殿」「代して)」、本来の単語に対して濁音が入るべきところに濁音が入っていない場合が2つ(「切対」「対表)で、全体の40%近くが濁音の曖昧さから来ていることが分かる。また、「不定的」「占」「学交」の書き誤りは三つとも本来の漢字の一部分が脱落している場合で、

「架空」の場合は本来の漢字に対して部品を余分に付けてしまっている例である。また、未成年子の「子」や高教生の「教」、そして社業の「社」などの書き誤りを見ると、これらの音読みがそれぞれ「みせいねんし」「こうきょうせい」「しゃぎょう」という発音となることから見ても分かるように日本語での発音を正確に分からない状態から韓国語の発音に対して漢字をあてがったのではないかと推察される。上記のように韓国語から直接漢字をあてがう過程で起こる漢字の当て字のミスが多いことからまずは日本語の発音をしっかりと覚えていき、正確な日本語の発音に対する漢字を入れていくようにすれば上記のようなミスはある程度防げるのではないと思われる。また、「人相」という言葉は普通人の顔付きを表す意味で使われ、その人の全体的なイメージを表すものではない。この誤りは「現象、現像、現状」のように韓国語では同じ発音をするために起こりうる間違いの一つで、漢字や発音によってどのような意味の違いが出てくるのかをしっかりと認識させる必要がある。次にこれらの書き誤りがどのような位置で発生しているのかを調べるために模式的に表8に表すことにする。

&lt;表8&gt; 書き誤りの類型と位置2



書き誤りの 類型	書き誤りの 位置	例	数
脱落		不定的(否定的)、占(点)	2
		学文(学校)	1
全く違った漢字で 代用	位置とは関係 なし	架空(加工)、切対(絶対)、中洞(中東)、道中 (途中)、如談(余談)、未成年子(未成年者)、 高教生(高校生)、社業(事業)、発殿(発展)、 対表(代表)、代して(対して)、安転(安全)	12

表8を見ると全体的に元々の該当漢字の一部分の書き誤りというよりは全く違った漢字を代用している場合が圧倒的に多いのが分かる。次に日本語での同音異字、同訓異字と同時に韓国語での同音異字となっている場合を見ていくことにする。

#### 4.4 2+3の場合

2+3とは「日本語での同音異字か同訓異字」であると共に「韓国語でも同音異字」となる書き誤りを示し、27例のデータが得られた。その具体例は表9に表す。

&lt;表9&gt; 日本語と韓国語の両方で同音異字の書き誤りの例

一週<→一周>、子共<→子供>4件、地型<→地形>、任娠<→妊娠>、片見<→偏見>、放棄<→方案>、里由<→理由>、理用<→利用>、間単<→簡単>、組父母<→祖父母>、可空<→架空>、定度<→程度>、結定的<→決定的>、死形<→死刑>、権理<→権利>、開員<→開院>、任婦<→妊婦>、情少年<sup>12)</sup><→青少年>、人券<→人権>、残認<→残忍>、積任<→責任>、大少<→大小>、実祭<→実際>、関係<→関係>

表9の書き誤りの漢字のうち「子共」の「共」、「里由」の「里」、「間単」の「間」、「実祭」の「祭」、「関係」の「系」は部首の一部が次如している場合で、特に「子共」の書き誤りは今回の調査全体でも同じ単語の同じ漢字を四人が同時に書き誤っているケースはこれ以外にはなかった。また、「一週」の「週」、「放棄」の「放」、「情少年」の「少」、残認の「認」、積任の「積」、「大少」の「少」は余計な部首や部品が付加されている場合で、また「任娠」の「任」、「組父母」の「

12) 4.4では「情小年」の「小」のみが該当する漢字である。

組、「死形」の「形」、「妊婦」の「任」は本来入るべきではない他の部首や部品と入れ替えられている場合、そして「地形」の「形」は他の部品と入れ替えられているのと同時に部品の付加もされている例である。これらの「部首の脱落」や「余計な部首や部品の付加」、「他の部首・部品の入れ替え」の11種の書き誤りは頭の中ではある程度の漢字の形はイメージできているが部首・部品などの細かい部分までは正確に覚えられていないと判断される。また、全く異なった漢字を入れてしまっている場合が8件あったが、この書き誤りは二字漢語のうち一つの漢字あるいは三字漢語のうち一つの漢字だけが異なった漢字で書かれている場合で、これらの書き誤りは元の漢字の形と全く違った漢字が書かれていることから該当単語の全体像としてイメージして書いたのではなく、一つ一つの漢字を当てはめる過程で漢字の選択ミスをしたのだろうと推察する。次にこれらの書き誤りがどのような位置で発生しているのかを調べるために模式的に表10に表すことにする。

<表10> 書き誤りの類型と位置3

書き誤りの 類型	書き誤りの 位置	例	数
付加		放棄(方案)、情小年(青少年)、残認(残忍)、 積任(責任)	4
		一週(一周)	1
		大少(大小)	1
脱落		子共(子供)4件、里由(理由)、実祭(実際)、 関係(関係)	7
		間単(簡単)	1
他の部品との入れ 替わり		任(妊娠、妊婦)、死形(死刑)	3
部品の入れ替わり +追加		地形(地形)	1
全く違った漢字で 代用		片見(偏見)、理用(利用)、組父母(祖父母)、 可空(架空)、定度(程度)、結定的(決定的)、 権理(権利)、開員(開院)、人券(人権)	9

表10を見ると全体的に見られる傾向として左側の部首の書き誤り<sup>13)</sup>が目立ち、全体の

13) しんのような書き誤りも左側の書き誤りとした。

52%を占めている。次に非漢字で代用している場合を見ていくことにする。

#### 4.5 非漢字で代用している場合

本稿での非漢字とは部品の付加や脱落、または違う部品の代用をすることによって常用漢字の形と異なっているものを指し、計28例のデータが得られた。その具体例を<表11>に表す。

<表11> 非漢字で代用している例

舍<→舎>、朞<→期>、𩺰<→強>、廠<→廠>、膾<→胎>、役<→的>、𩺰<→順>、道 <→道>、旃<→族>、認<→認>、𩺰<→所>、總<→繪>、作<→作>、被<→被>、僕 <→僕>、深<→深>、航<→船>、畚<→含>、扁<→備>、幸<→幸>、作<→作>、環 <→環>、𩺰<→当>、男<→男>、想<→想>、驢<→駐>、𩺰<→社>、拓<→拓>
---

表11の非漢字で代用している書き誤りを類型別に分類すると5分類することができる。一つ目の分類では舍(舎)、僕(僕)、畚(含)、作(作)、男(男)のように縦線や横線の付加してしまったり、脱落してしまっている場合で、二つめの分類では朞(其)、𩺰(強)、𩺰(順)、𩺰(当)のように部品の左右あるいは一部分が反対となっている場合、また三つ目の分類は廠(廠)、道(道)、被(被)、深(深)のように一つ又は二つの点が脱落あるいは付加されている場合、四つ目の分類は環(環)、想(想)のように部首あるいは部品の一部が脱落している場合、五つ目の分類は膾(有胎)、役(的)、認(認)、𩺰(所)、總(繪)、作(作)、幸(幸)、驢(駐)、想(想)、航(船)、拓(拓)、旃(族)のように部品の一部が全く違う部品となっている場合、最後に5つ目の分類では扁(備)、𩺰(社)のようにすべてが全く違った部品で構成されている書き誤りである。これらをまとめてどの部分での書き誤りが多いのかを調べるために間違った部分を模式的に表してみると表12の通りである。

<表12> 書き誤りの類型と位置4














書き誤りの 類型	書き誤りの 位置	例	数
付加		深(深)	1
		僕(僕)	1
		畚(含)、畚(舎)	2
脱落		被(被)、作(作)	2
		道(道)	1
		廠(廠)	1
		作(作)	1
		環(環)	1
		男(男)	1
他の部品との入れ 替わり		膺(胎)、般(的)、認(認)、淡(所)、総(絵)、 驢(駐)、航(船)、拓(拓)、旻(族)	9
		想(想)	1
		幸(幸)	1
部首と部品が逆、 または部品の左右 反対		朞(期)、鯨(強)、頁(順)、𠂔(当)	4
全く違った部品で 構成		扁(備)、私(社)	2

表12を見ると非漢字で代用している書き誤りのうち右の部品が間違っている場合は9件と最も多く、28例の書き誤りの32%を占めていることが分かる。次に形が似ている漢字の代用を見ていくことにする。

## 4.6 形が似ている漢字の代用





形が似ている漢字の代用とは部品の一部が同じであったり、全体的な形が似ている漢字で、非漢字ではない常用漢字を代用し、日本語の音読み・訓読みや韓国語の発音と一致しないものを指し、46例のデータが得られた。具体的な例は表13に表す。

<表13> 形が似ている漢字の代用の例

その間<→その間>、自位<→自立>、国察<→国際>3件、反村<→反対>、問題<→問題>4件、実察に<→実際に>3件、辛せ<→幸せ>、虚待<→虐待>、男生<→男性>、白眼観<→白眼視>、お年奇り<→お年寄り>、仏って<→払って>、可態性<→可能性>、替成<→賛成>、自浸話<→自慢話>、深く<→深く>、犯罰<→犯罪>、言い源す<→言い渡す>、小しだけ<→少しだけ>、罰を<→罪を>、語を<→話を>、而えられる<→耐えられる>、必悪<→必要>、視<→親>、位直<→位置>、警際<→警察>、休罰<→体罰>2件、形能<→形態>、陪分<→部分>、人門<→人間>、授けた<→受けた>、以ている<→似ている>、白転車<→自転車>、深す<→探す>、間違い<→間違い>、地の<→他の>、咸長<→成長>、直いてある<→置いてある>

表13の形が似ている書き誤りは今回の調査で最も多かった書き誤りで、全体の34%を占めた。これらの書き誤りがどの部分において実際の漢字と違っているのかを模式的に表したものを表14にまとめる。

<表14> 書き誤りの類型と位置<sup>5</sup>

書き誤りの類型	書き誤りの位置	例	数
付加		自位(自立)、警際(警察)、授けた(受けた)	4
		問題(問題)4件	4
		可態性(可能性)	1
脱落		以ている(似ている)、男生(男性)	2













		位直(位置)、直いてある(置いてある)、お年寄り(お年寄り)、辛せ(幸せ)	4
		小しだけ(少しだけ)、形能(形態)、替成(賛成)	3
		その間(その間)、人門(人間)、間違い(間違い)	3
		休罰(体罰)2件、而えられる(耐えられる)	3
付加+脱落		実察(実際)3件、国察(国際)3件	6
他の部品との入れ 替わり		反村(反対)、仏って(払って)、探く(深く)、視(親)、地の(他の)、白眼観(白眼視)、深す(探す)	7
		語を(話を)、言い源す(言い渡す)	2
		罰を(罪を)、必悪(必要)、犯罰(犯罪)	2
		虚待(虐待)、成長(成長)	2
		自浸話(自慢話)	1
		白転車(自転車)	1
部首と部品が逆		陪分(部分)	1

表14を見ると部首や部品の付加や脱落、他の部品で代用している書き誤りの中で最も共通して多いのが左側の書き誤りで計20例<sup>14)</sup>で43%を占めていることが分かる。次に日本語にある単語であるが、使われ方が適切でない場合を見ていくことにする。

#### 4.7 漢字の前後転倒

漢字の前後転倒とは、例えば「生先」のように二字漢語の前後左右が反対になっている場合で今回の調査では2例のデータが得られた。具体的な例は表16に表す。

14) ここで言う20例というのは左側以外に他の個所で同時に書き誤りをしている場合を含む数字である。

## &lt;表16&gt; 漢字の前後転倒

在存(→存在)、語言(→言語)
-----------------

これらの書き誤りは学習者の立場から考えると二字漢語のお互いの漢字の形がどこか似ており、例えば「在存」の書き誤りでは「宀」が共通しているし、また「語言」では「言」が共通していることから見て形が似ているために起こったケアレスミスだと考えられる。

## 4.8 その他

その他に入れた書き誤りは上で分類した類型に当てはまらない場合で、2例のデータが得られた。それを表17に示す。

## &lt;表17&gt; その他

対代に<→絶対<、同う<→思う>
------------------

表17の「対代」は韓国の発音では‘대대’となり、また「同う」の「同」は‘동’と発音することから日本語との全くの共通性や書き誤りの要因は見当たらず単なるケアレスミスであると判断せざるを得ない。しかし、ここで考えるべきことは「思う」という漢字はJLPT N4に出てくる基本的な漢字である。いくらケアレスミスと言っても基本的な漢字が作文において書けていないという現実を見ると日本語学習者、特に初級レベルから漢字を書かせる教育の必要性を感じる。

## 5. おわりに

以上のような韓国人上級日本語学習者の作文中に見られる漢字表記誤用の分析結果に基づき、徹底した漢字教育、つまり漢字を読むことはもちろん、作文において漢字をしっかりと書くための練習など今まで疎かにされがちであった漢字習得に対して再考する機会となった。そこで上記の調査結果を考慮した韓国人上級日本語学習者に対する漢字指導の方



向性を考えてみたい。

- ① 漢字全体のイメージと各部品の字形を分解して覚え、各漢字の持っている意味を指導する。
- ② 漢字指導の際は特に左側の部品に対する字形の認識をしっかりとさせる。
- ③ 一つの単語の正確な発音をまず覚えさせ、その漢字の濁音の有無をしっかりと認識させる。
- ④ (日本語指導者が韓国語の既習者の場合)両国で全く同じ漢字を使っているのに意味や使い方が違っている単語が教材に出てきたらそのたびに指導して両単語は同じではないということを確認させる。(韓国語の既習者でない場合は作文上での書き誤りがある際にフィードバックして指導していく。)

①については二字漢語であれ三字漢語であれ漢字全体をイメージ化することで当て字で書くことを防ぎ、次に各部品を分解して覚えることは当てずっぽうな部品を入れることで非漢字となってしまうことを防ぐことができるし、また部品の追加や欠如などを防ぐ効果がある。また、各漢字の持っている意味を理解させる必要性があるのは、例えば今回の調査で「人生」を「人盛」や「仁盛」と書いた書き誤りがあったが「人生」を「人が生きること」というように根本的な漢字の意味を理解させればこういった書き誤りがある程度は未然に防ぐことができるし、妊娠の「妊」を「任」と書いてしまう誤りも女性を表す「女偏」という観点から覚えさせれば間違いを未然に防ぐことができると思われる。②については今回の調査でも明らかになったように日本語での同音異字や、さらに日本語・韓国語両言語での同音異字、そして形が似ている漢字の代用の書き誤りを見ても40~50%は左側の部品の書き誤りが多かったことをもとに考えると漢字指導において重点的に覚えさせるべき部分が左側の部品であることが分かる。③日本語学習者に単語に対する正確な発音を覚えさせることは当たり前のことではあるが、例えばある学習者が普段から「高校生」という単語を「こうきょうせい」と発音しているとすればその発音に対する漢字を書こうとする際、当然のごとく「きょう」の個所は違う漢字をあてがわざるを得ない。また、「安全」という単語を「あんてん」と発音してしまっている学習者も会話の授業の中で比較的多いことから見ても同じようなことが言える。そして、4.3での40%が濁音の問題であったことから会話に必要な単語を漢字抜きで感覚的に発音だけを覚えている学習者が多い中で特にひらがなで単語の発音を書かせる際にも濁音の有無が分からないことが多く、ましてや漢字を書くとさらに濁音の曖昧さが問題になってくるはずである。最後に④については例えば日本語では「警察に通報する」というが、「通報」という言葉一つを見ても韓国語での‘통보(通報)’は「ある資料やお知らせなどを通知して報告したり知らせること」と延世韓国語辞典に意味が記されてい

る<sup>15)</sup>。もちろん日本語にも同じような意味合いはあるが、「(電話で)警察に~する」という形になると韓国語では 경찰에 신고하다(警察に申告する)という形を取るのが一般的であることから分かるように辞書上で同じ漢字を使った単語が出ているとしても使い方や意味が違う場合があるということは上級日本語学習者であるがゆえに言語文化的な差をより深く認識していくという必要性があることを感じる。

以上、調査の結果から今後の漢字教育に対する方向性を提示してみたが、根本的な問題としては限られた授業時間の中で漢字教育を行う時間を十分に取ることは難しく、ほとんどが各学習者に任せられているのが現実である。その限られた時間内に有効に漢字教育を行うためには1大学での調査に終わらず、さらなる多くの調査を通して韓国人上級日本語学習者の漢字の書き誤りの一般的な傾向を把握するために持続的なデータを収集していく必要がある。それを今後の課題としていきたい。

### 【参考文献】

- 河室兼一郎(2003)「韓国における日本語学習者の誤用傾向分析—2年制大学の学生の作文を通して」慶尚大 学校教育大学院修士学位論文, pp.22-24
- 大塚薫・林翠芳(2010)「中上級レベルの日本語学習者の作文教育-意見文にみる語彙・換字使用及び誤用の分析結果を踏まえて」『高知大学総合教育センター修学・留学生 支援部門紀要』第4号
- 佐々木良造(2008)「マレー人日本語学習者の作文にみられた漢字の書き誤り」『世界の日本語教育』18
- 崔廷珉(2005)「日・韓漢字字体の相違による問題点-韓国人日本語学習者向けの効果的な漢字指導を目指して-」『国語学研究と資料』28
- \_\_\_\_\_(2009)「漢字の誤表記における韓国人学習者の特徴について—非漢字圏学習者との比較から—」『日本学報』第79輯, pp.113-123
- 長原成功(2010)「韓国人日本語学習者の漢字表記上の問題について」『日本近代学研究』第29輯, pp.129-141
- 李 薇(2009)「日本語の表記に関する誤用分析—東華大学日本語学習者の場合—」『日本言語文化研究』第13号
- 廬 涛(2004)「漢字誤用の分析—総合コミュニケーション能力の育成を目指して—」『広島大学総合科学部大学紀要』7, pp.75-86
- 朴世珍(2010)「韓日 初等學校 漢字教育 比較와바람직한漢字教育 方案」誠信女大 大学院 博士学位論文, p.98, pp.200-203
- 윤호숙(2007)「한국인 일본어 학습자의 작문 오용에 관한 고찰」『일어일문학연구』Vol.63
- 趙南星(2002)「일본어 상급학습자의 작문에 나타는 형태상의 오용」『일본어교육연구』Vol.1
- \_\_\_\_\_(2003)「한국인 일본어 학습자의 작문에 나타나는 오용의 분석과 평가」『일어일문학연구』Vol.47
- \_\_\_\_\_(2004)「한국어 화자가 잘 틀리는 일본어 오용」『일어일문학 연구』Vol.51
- \_\_\_\_\_(2007)「대학교의 일본어 교재에 나타나는 사회어용론적인 오용의 분석과 평가」『동북아문화연구』제 12집
- 文化庁の当用漢字字体表

15) 延世大学校言語情報開発研究院編(1998)『延世韓国語辞典』斗山東亞

[http://www.bunka.go.jp/kokugo\\_nihongo/joho/kakuki/syusen/tosin05/index.html](http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/joho/kakuki/syusen/tosin05/index.html)

小川芳男外11人(1982) 『日本語教育事典』大修館書店

小学館国語辞典編集部(1972) 『日本国語大辞典第二版』第11巻 小学館

延世大学校言語情報開発研究院編(1998) 『延世韓国語辞典』斗山東亞

---

논문투고일 : 2012년 09월 10일

심사개시일 : 2012년 09월 20일

1차 수정일 : 2012년 10월 10일

2차 수정일 : 2012년 10월 20일

게재확정일 : 2012년 10월 25일

---

---

 <要旨>
 

---

### 韓国人上級日本語学習者の漢字の書き誤りに関する一考察

本研究はD大学の日本語関連科に所属している学生のうち日本語能力試験の旧1級もしくはN1に合格している2009年から2012年の前期までに日本語学習者63名に対し書かせた自由作文の中に現れた漢字の書き間違いを分析し、これからの日本語上級者に対する漢字教育の方向性を示そうとした研究である。分析結果から得られた漢字指導の方向性は次の通りである。

①漢字を全体のイメージと各部品<sup>①</sup>の字形を分解して覚え、各漢字の持っている意味を指導する。②漢字指導の際は特に左側の部品に対する認識をしっかりとさせる。③一つの単語の正確な発音をまず覚えさせ、その漢字の濁音の有無をしっかりと認識させる。④日本語指導者が韓国語の既習者の場合は両国で全く同じ漢字を使っているのに意味や使い方が違っている単語が教材に出てきたらそのたび<sup>②</sup>に両単語は同じ意味ではないということを認識させる。

#### Study on Misspelled Chinese Characters Used by Advanced-Level Japanese Learners among Koreans

This study aims to suggest directions of Chinese character education for advanced-level Japanese learners in the future by analysing misspelled Chinese characters which appeared in essays written by 63 Japanese learners belonging to Japanese-related majors of D university, who passed JLPT N1(Level 1 as an old version of JLPT), between 2009 and the first semester of 2012. In line with the analysis results, directions on Chinese character education are as follows:

① Have learners memorize Chinese characters by dismantling their images and parts, and teach them meanings of individual Chinese characters. ② When teaching Chinese characters, make sure that learners understand left parts of them ③ Direct learners to memorize accurate pronunciation of each word first, and then make them aware of whether there is a sonant within the pronunciation ④ Despite the fact that both Korea and Japan use the same Chinese characters, make learners aware of that an identical word can be used in different meanings if the word is used in different meanings and usages in learning materials(this direction is only applied for Japanese educators able to speak Korean).